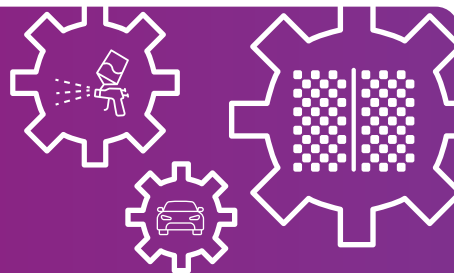


## 複雑な塗装プロセスの簡素化

# 新たな挑戦的なテクスチャーの再現

昨今車両メーカーがさまざまなテクスチャーを導入する中で、塗装業者は色合わせに加えてテクスチャーのマッチングという課題に直面しています。スプレーガンの設定、熟練した塗布技術、適切なマスキング技術が、これらの新しい挑戦的なテクスチャーを再現するための鍵となります。



## アンダーコート(ロッカーガード)の再現

かつてほぼすべての車両で均一であったアンダーコートやロッカーガードのテクスチャーは、現在では車両のメーカーやモデルによって大きく異なります。異なるテクスチャーとトランジションラインを再現するためのヒントを以下に示します：



### 粗いテクスチャー

- フルイド(塗料流量)は全開、エア圧は非常に低く設定します。
- 非常に粗いテクスチャーを出すには、複数回の塗布が必要になることがあります。
- 初回塗布で可能な限り粗いテクスチャーを作り、完全にフラッシュ(乾燥)させてから重ね塗りをしてください。



### 中程度のテクスチャー

- 粗いテクスチャーをスプレーする場合と比較して空気圧を上げる必要があります。
- 高い空気圧は、ロッカーガードやアンダーコートをもう少し霧化するのに役立ちます。
- 2回目の塗布が必要な場合は、1回目の塗膜が完全にフラッシュしていることを確認し、2回の塗膜が流れ合ってテクスチャーが平坦化しないように注意してください。



### 細かいテクスチャー

- スプレーガンを高い空気圧と塗料流量を低く設定します。
- それでも細かさが足りない場合は、より小さいノズルサイズを使い、さらに細かく霧化させます複数回塗布する場合は、必ず各塗膜の間で完全にフラッシュさせてください。



### ハードトランジション

- テクスチャーコーティングが止まるシャープなライン。
- 高品質のマスキングテープ、またはビニールテープを使用することで、超鮮明な境界線の形成に役立ちます。
- アンダーコートが完全に乾く前にテープを剥がすようにしてください。



### ソフトトランジション

- ハードトランジションラインで使用されるプロセスに従いますが、フォームやスモーストランジションテープなどのソフトエッジ用のマスキングテープを使用します。
- また、技術者の中にはマスキングテープの端を折り返して使う方法もありますが、仕上がりにムラが出やすいため、ソフトエッジ用マスキングテープの使用を推奨します。



### ロングトランジションライン(長いぼかしライン)

- ソフトなエッジを必要とするロングトランジションラインを実現するためには、バックマスキング技法がよく使用されます。
- この方法では、マスキングペーパーを折り返したり丸めたりして、非常に柔らかいエッジを作り出すのが一般的です。



### スームズテクスチャーブレンド

- 一部の車両では、目立ったラインがなく、パネル全体の通常のテクスチャーに自然に馴染むような仕上がりが求められることがあります。
- この方法は最も難易度が高く、スプレーガンとオーバースプレーの完全なコントロールが必要です。
- マスキング資材の使用はできません。

粗い	ノズルサイズ: 2.0 ファンノブの回転数: 1回転 H/Oノブの回転数: 1回転 フルイドノブの回転数: 2回転 エア圧 (psi/bar): 3-5 psi (0.20-0.35 bar)	
中程度	ノズルサイズ: 2.0 ファンノブの回転数: 1回転 H/Oノブの回転数: 1回転 (全開) フルイドノブの回転数: 1回転 エア圧 (psi/bar): 10 psi (0.70 bar)	
微細	ノズルサイズ: 2.0 ファンノブの回転数: 1回転 H/Oノブの回転数: 1回転 (全開) フルイドノブの回転数: 3/4回転 エア圧 (psi/bar): 20 psi (1.38 bar)	

## 3M™ パフォーマンススプレーガンの調整で、3種類の基本的なアンダーコートテクスチャーを再現



異なるテクスチャーを塗布したスプレーアウトパネルを作成し、それぞれに対応するスプレーガンの設定を記録しておきましょう。次回以降の作業時には、そのパネルを参照してスプレーガンの調整に役立てることができます。



これらの設定は、3M™ パフォーマンススプレーガン使用時の初期設定値です。最適な塗布結果を得るために、各ユーザーが望むパターンに応じてスプレーガンを調整してください。



ツマミの回転数は、閉め切った状態から反時計回りに360度単位で測定しています。



## トップコートのマッチング(クリアコートテクスチャー)

今日の車両には表面テクスチャー(オレンジピール)に顕著な違いがあります。クリアコートにおけるオレンジピールの再現では、周囲のパネルの質感を忠実に再現し、修理箇所を目立たせないことが目標です。以下は、さまざまなクリアコートテクスチャーを再現するためのヒントです：



一般的に、空気圧と塗料流量の比率が高いほど、テクスチャーは細かくなります。より細かいまたは平らな表面テクスチャーを再現するには、空気圧を上げると、液体制御ノブを回してください(逆にして粗いテクスチャーの場合)。ノズルサイズも仕上がりの結果のテクスチャーに影響を与えることがあります。



一般的に、ノズルサイズが大きいほど粗いテクスチャーになり、小さいほど細かいテクスチャーになります。塗布方法を変えることで、テクスチャーに変化をつけることができます。



スプレーガンとの距離、重ね塗りの量、塗布スピードなどが、テクスチャーに影響を与えます。これらの技術을調整して最終結果がどのように変わるかを実験してください。

高粘度またはテクスチャーコーティングを塗布するための多くの選択肢があります。3M™ パフォーマンス スプレーガン システムはボディシュッツやエアソール塗布と比べて、パターンへの制御性に優れています。

システムには以下が含まれます：



3M™  
パフォーマン ススプレーガン



3M™  
パフォーマン ススプレーガン  
H/O コンバージョンパック



3M™  
PPS™ シリーズ 2.0 タイプ  
H/O プレッシュャーカップ